



地下鉄薬院駅では、駅の魅力アップのため、駅構内の丸柱に計5つの福祉事業所の利用者が描いたイラストが大きくプリントされています。

その内の一本に、大きな樹木が描かれたひまわりパーク六本松の利用者の皆さんの作品があります。今回は、その大きな樹木を描いた利用者の東浩司さんと、支援員の山中理恵さんにお話しをうかがいました。

絵を描くときに一番大事にしていることは何ですか？

東さん 絵を楽しんで描くことと、毎日描くことです。

最初はうまくなかったけど、アートを自分でやろうと決めて、みんなのためにも描こうと思いました。また、もつとうまくなりたいと思って家でも毎日描いています。今は「誕生パーティー」の絵を描いています。今、頭の中で考えながら描くのでとても難しいです。

東さんはどんな作家さんですか？

山中 東さんは絵を描くことが絶対的に好きですね。簡易作業よりアート活動をする人が多いです。ひまわりパークの中ではナンバーワンに好きです。独自の感覚で、「これを後ろから描いたらどうなるのか」「横顔はどう描けば良いのか」など、自分の中から湧き出てくる「描きたい」という思い

で描いているようです。それに上手になりたいという思いがとて強く、工夫をしながら描くので進歩が早いです。

余暇活動で美術館へ行くと、一つの作品をじっくり観察して、「これはどうなっているのかな」と熱心に鑑賞されます。

障がい者のアート作品が街中で見られるようになりました

山中 とても良いことと思います。作家本人にとっても、家族にとっても。そして、街行く人が「何だろう？」、「どんな人が描いたんだろう？」と興味を持ってもらえると良いです。それぞれの作品が、一般の方と障がい者との橋渡しをしてくれると良いです。

ひまわりパーク六本松は、アート活動が活発ですね

山中 アート活動のきっかけは、以前清掃の委託を受けていた植物園の時に遡ります。雨天の時等清掃ができない日は屋内で画用紙一枚に一人一人がそれぞれ絵を描くような取り組みをしていました。その描いた絵をグループ展や自分達だけの展覧会をしたりしていました。

ひまわりパーク六本松が開所される前に活動内容が話し合われたのですが、随分協議を重ねました。そして、最終的にはアート活動が採用されました。

た。それは、植物園で清掃をしていた時の取り組みがきっかけになったと思います。

ひまわりパーク六本松の活動の柱は？

山中 アート活動と簡易作業の2つです。この2つの活動を午前、午後で分けて行っています。現在はコロナ感染予防のため、利用者は利用日の3日の内1回は在宅ワークをしています。内容はアートです。もはやアート活動は切っても切り離せない活動になりました。



「ルリエ」天神地下街モニュメント(上)
地下鉄薬院駅(右)



東さんの絵は水彩画です。お休みの日も近くのフレンドホームで絵を描いています。





毎年発行しているカレンダーですが、今回のテーマは？

山中 カレンダーのテーマはその年の「空気」を感じて付けています。今回のテーマはハイジです。なぜかと言うと、コロナコロナの閉塞感に憂えを感じたからです。ハイジと言えば、アニメの「アルプスの少女ハイジ」が印象に残っていると思いますが、原作は大変宗教色が濃く、信仰教育のための児童文学なんです。

原作では、フランクフルトに連れられて来たハイジは、クララのおばあさんによって読み書きを覚え、神に祈る

ことを教わります。そして人の為に尽くす生き方をするようになります。結果、人と人を結ぶ人物になっていきます。クララもそんなハイジに影響され、子ヤギにエサを与えたことをきっかけに、立えない自分でも人の役に立てることに気付き喜びを感じます。そして、自分も役に立つ人になりたいと思うようになりました。

ひまわりパークの利用者も同じで、誰かの役に立ちたいとの思いがあります。そのメッセージをカレンダーという一冊の本に込めて作りしました。実は、毎年作成しているカレンダーには、こうした一貫したテーマが根底にあり、その年の空気を感じてから利用者によってほしい絵のテーマを決めています。

利用者ご家族との間に変化が

山中 利用者の中にはもともと清掃業務をしていた方もいます。そのため、「我が子は掃除しかできない」と思われていたご家族が、彼らのアートをみて「こんな才能があったんだ」と我が子を見直し、誇りに思えるようになりました。この事が利用者へ還元されます。

自分自身が認めてもらえたり、親の自慢に思ってもらえたり、誇りに思ってもらえた喜びです。このことが一番幸せなことだと思いますし、利

用者の作品を世に出すことの大きなメリットを感じています。

ひまわりパーク六本松の製品に名付けている「peece plant」というブランド名について教えてください

山中 「peece plant」のplantは植物や工場という意味で、植物園での清掃にちなみ、植物であるplantを入れることにし、peeceは、peece（一つ一つ、かけら）とpeace（平和）を掛け合わせて作った造語です。これらを合わせて「peece plant」にしました。意味は、ひまわりパーク六本松の利用者、職員の一人一人が、ジグゾーパズルを構成する一つ一つのかげらのように、平和という植物を育てていくという願いを込めて名付けました。



山中さんは、かつてはアーティストとして、寝ても覚めてもアート漬けの毎日だったそうです。



ひまわりパーク六本松

